

国際シンポジウム イタリアの都市の表象

【プログラム】

10:30 開会

10:40-12:30 講演（第一部）

●ラファエレ・ミラーニ Raffaele Milani (ビデオ講演)

理想的都市 Ideal cities

●フェデリコ・ファルネ Federico Farnè

凝視と雰囲気—ヴェネツィアに関する様々な光景

Gazes and atmospheres: the different views of Venice

13:30-17:00 講演（第二部）

●ロベルト・テッロースィ Roberto Terrosi

都市、田舎、風景：プレアーバンからポストシティまで

City, Countryside and Landscape: from Pre-Urban Condition to the Post-City.

●土肥秀行 Hideyuki Doi

風景の不在と「写生」の誕生 Landscape and sketching: presence and absence

●ジョヴァンナ・ペリーニ・フォレザーニ Giovanna Perini Folesani

カラッチ画家一族が描いた風景、タウンスケープ、地図

Landscapes, Townscapes and Maps in the Oeuvre of the Carracci

●ロベルト・ファルネ Roberto Farnè

都市、広場、遊戯 The City, the Square and the Play

17:00-17:30 ディスカッション／司会 仲間裕子 Yuko Nakama

通訳あり

日付：2018年5月26日（土）

時間：10:30-17:30

場所：創思館カンファレンスルーム

歴史的な世界への文化貢献にとどまらず、近代においても文芸諸分野で日本でもよく知られるイタリア文化ですが、ボローニャ大学、ウルビノ大学、立命館大学からイタリア文化に造詣の深い研究者たちが集い、都市風景の表象（美術、美学、文学、ポピュラーカルチャー、遊戯）を過去・現在の継続と変容において概観します。

登壇者プロフィール

ラファエレ・ミラーニ

ボローニャ大学教育科学部正教授、同大学高等研究院都市研究所所長。「風景の知識から風景の動きまで」（フランス環境省）ヨーロッパ委員、国際美学学会イタリア代表を務める。主著に *The Art of the City*, 2017, *The Art of Landscape*, 2009（『風景の美学』、2014 年）；「風景の形態」『自然の知覚：風景の構築・グローバルパースペクティヴ』、2014 年他。

フェデリコ・ファルネ

立命館大学国際言語文化研究所客員協力研究員、ボローニャ大学非常勤講師。研究プロジェクト「接触と境界—身体と都市に関する東西の美学」に従事。文学や映画におけるサイバーパンクやサイエンスフィクションについての比較美学論や、東京を歴史的連続性の美学として捉え、グローバルな視点に依拠した論文（2017）がある。

ロベルト・テッロースィ

立命館大学文学部非常勤講師。ローマ大学（Tor Vergata）博士号取得。サイバーパンクとポストヒューマンの研究に従事し、来日後は京都大学、東京外国語大学他で教鞭を執る。主著に *The Philosophy of Post-Human*, 1997, *Genealogy: Nietzsche, Foucault and Other Genealogists*, 2012, *Oriental Aesthetics*, 2014 他

土肥 秀行

ボローニャ大学イタリア文学科で博士号取得後、現在は立命館大学文学部教授。ここ数年 20 世紀初頭のイタリアと日本の前衛研究に従事。単著に *L'esperienza friulana di Pasolini. Cinque studi* (Gesati, 2011)（『パゾリーニのフリウリ体験』）、共編著に『教養のイタリア近現代史』（ミネルヴァ書房、2017 年）がある。

ジョヴァンナ・ペリーニ・フォレザーニ

ウルビノ大学人文学部教授。前国際美術史学会イタリア代表。ローマ大学、オバーリン大学（ロバート・ボードウィン・ゼミナル教授）等で教鞭を執る。西洋美術（ルネサンスからバロック後期）、アート・コレクション、イタリアとイギリスの初期近代・近代美術、美術関連の応用記号論等の著書がある。

ロベルト・ファルネ

ボローニャ大学ライフ・クオリティー学部正教授・副学部長。遊戯とスポーツ教育、教育的図像学、メディア教育の研究に携わる。イタリア国営放送、ウォールト・ディズニー（イタリア）、国立センター「幼年期・思春期の文書化および分析」等でコンサルタントも務める。論文に *Play and the city*, in: *Ricerche di Pedagogia e Didattica* XII, 2017 他。

仲間 裕子

立命館大学産業社会学部教授。同大学国際言語文化研究所重点研究プロジェクト「風景と空間の表象、記憶、歴史」代表。単著に *Caspar David Friedrich und die Romantische Tradition, Moderne des Sehens und Denkens*, 2009, 共編著に『自然の知覚：風景の構築・グローバルパースペクティヴ』、2014 年他。



主催：立命館大学国際言語文化研究所
共催：立命館大学国際言語文化研究所重点研究プロジェクト
「風景と空間の表象、記憶、歴史」